

地域パトロール(地パト)

～学生による地域パトロール～

① 地パトが活動を始めたきっかけ・活動の目的

昨年大学を卒業した先輩方が 2010 年の秋ごろにサークルとして立ち上げ、自分たちで何かできないかと考え、同学部の有志と地域防犯に取り組むことにしたのが始まりである。

先輩方が地パトを立ち上げ、声をかけられ、地域活動に関心を持って参加したことがきっかけで現在に至っている。最初は、何となくであったが、地域の方とパトロールを通して交流することで、顔見知りになり活動の幅が広がっていくようになった。

活動の目的は、地域の住民が自ら防犯パトロールに参加し、自分たちの住んでいるところは自分たち自身で守ってもらえるようにすることである。学生はそれを達成してもらえらるためのサポートである。また、地域の防犯意識を高めてもらい、地域の安全を確立してほしいということも目的のひとつである。

② 地パトのメンバー構成

四日市大学生

4 年生…1 人

3 年生…6 人

2 年生…7 人

1 年生…1 人

計 15 人

③ 現在の主な取組内容

毎月第 1・3 火曜日にあさけが丘（四日市市）で地パトを行い、第 2 火曜日に白梅の丘（朝日町）で地パトを行っている。第 4 火曜日を地パト会議としている。17 時頃から 1 時間程度活動をしており、冬場は特に暗くなるのが早いので、反射するたすきをかけ、蛍光棒を光らせながら地域をパトロールしている。朝日町の方では白梅西と東の二つをパトロールするため、班を分けて回っている。また、住民の方も参加してくれるので、回るところは住民の方の意見も取り入れている。特に夕方からは暗くなり、注意が

必要な時間帯なので、危険な箇所も見つけながら行っている。その他、最近では消火栓のホースの貴金属が盗まれやすいので、消火栓を見つけたら、備えられているものがあるかどうか確認をしている。なお、どの人たちが活動しているかわかるように、地パトのユニフォームを着て、大学の幟を持ってパトロールしている。



↑活動場所



ユニフォームを着て、反射板をかけ、大学の活動であることをアピールしながら住民の方と一緒にパトロールしている

④ 地域との連携の具体的な状況

2012年8月にあさけが丘で流しそうめんのイベントを行った。あさけが丘の竹を使って、すべて手作りで流しそうめんの道を作った。このイベントをするまでに地域の方と打ち合わせをして内容をつめていったり、自分たち学生の日程を合わせ、短い時間で準備をするのが大変であった。当日は多くの方が来てくれて、特に子どもたちも多く、楽しそうに流しそうめんを満喫していた。このイベントを通して多くの方と交流することができ、地パトを知ってもらえたのではないかと思います。



↑流しそうめんの準備



当日、流しそうめんを楽しむ子どもたち



2013年11月には朝日町で白梅祭があり、地パトとして参加した。ブースを設け、「どんぐり飛ばし」を行った。朝日町は子どもが多く、興味深々にゲームに夢中になっていた。白梅祭には何回か参加させていただいており、地域にとってもようやく覚えてもらえるようになってきたと思う。



↑朝日町 白梅祭の様子

⑤ これまでの取組の成果・課題

あさけが丘から地パトが始まり、今は白梅の丘（朝日町）にも活動範囲が広がった。最初はなかなか成果はでなかったが、継続していくうちに覚えられるようになったり、住民の方と一緒にパトロールできるようになった。また、流しそうめんや祭りなどの地域でのイベントに参加できたりと成果がでてきた。また、新聞など広報についても少しずつではあるが知ってもらえるようになってきたと思う。

課題について、まだ住民の方の参加が少ないように思える。自分の住んでいるところは自分たちで防犯意識を持って取り組んでもらうことが必要である。活動日が火曜日になっており、手一杯のところがあるということがある。また、地パトの後輩が少なく、人手不足といったことが課題となっている。人手集めが重要だということを知り、継続していくには必要不可欠なことである。

⑥ 今後の方向性・将来の夢

今後の地パトの方向性は、活動地区であるあさけが丘と朝日町の地区を住民が自主的に自分たちの地域の防犯に努めてもらい、活動地区から手を引くようにできればよい。そして、まだ防犯意識が薄く、住民自身が主体的に取り組まれていない地区に視点を移せたなら繋がりも増え、コミュニティの絆、交流を通して地域の防犯に貢献できると考える。